

## 第6章 キャリア教育の施策の方向性に係る提案について

○前章までのアンケート調査結果、インタビュー調査結果および仮説検証結果から、今後、子供たちに十分なキャリア意識を醸成し、産業界が求める人材を育成するために、生徒、教員、保護者、企業等を対象に以下の観点からキャリア教育の取組を推進していくことが重要であるということを確認し、具体的な施策の方向性について意見を聴取した。

- ・生徒・保護者対象：進路やキャリアに対する理解の深まり
- ・教員：教育の質の向上
- ・企業：キャリア教育への協力姿勢強化

○第3回協議会における構成員の意見を踏まえ、第4回協議会（令和6年2月7日開催）では、それぞれの対象に、次の観点から施策の方向性を検討することを確認した。議論の参考とするため、現在県で実施している取組や外部組織等の実施例の資料を提示した上で、さらなる意見聴取を行った。

生徒対象：キャリア意識醸成の促進・生徒と企業との接触機会の充実・  
外部人材活用の充実

教員対象：教員研修によるキャリア教育の質の向上

保護者対象：保護者への情報提供機会の充実

企業・業界団体・経済団体対象：企業等との連携の強化

○協議会における議論を踏まえて、本章では、キャリア教育の施策の方向性に係る提案を行う。

### 1. 協議会における主な意見と施策の方向性

#### （1）生徒対象

※「キャリア意識醸成の促進」、「生徒と企業との接触機会の充実」、「外部人材活用の充実」の3観点から検討したが、「外部人材活用の充実」については、他観点到統合して示すこととする。

#### ア. キャリア意識醸成の促進

##### ① 自己理解とキャリア意識を深めるための取組の推進（中学生・高校生対象）

（第3回意見）

- ・自己を考えさせる学習は、教育活動のいろいろな場面で行うものだが、自分の個性や向き・不向きを考えさせる学習に必ずしもうまくつながっていないのではないか。
- ・メンタリングで自己の在りたい姿などを言語化させることによって、自己の生き方・在り方を考えさせることができた例がある。既存のプログラムの中に、自分の言葉で表現する活動を見出していくことが重要。
- ・「校長面接」の機会を設けて、将来のことや社会に出た際に必要な力などについて時間

をかけて一人一人の生徒に話をさせている。

- ・メンタリングなど生徒が自分の言葉で語れるようにサポートしていく取組は素晴らしい。
- また、校長面接も一人一人の生徒が考え、語る場面、ナラティブの力を引き出している。
- ・自己理解を促すプログラムの実施などに当たって、子供たちから言葉を引き出すのは時間がかかるものなので、外部人材を活用できればよいのではないか。

#### 第4回協議会提示資料(1)

<事例 千葉県の取組（普通科高校におけるキャリア教育実践プログラム研究事業）>

**実施目的：**普通科で学ぶ生徒が、目的意識を明確にした卒業後の進路選択を行う力を育成するための実践的なプログラムを提供。あわせて、プログラムの効果の分析を行い、次年度以降の、普通科高校におけるキャリア教育に関する事業展開に向けた資料とするもの。

**キャリア教育プログラムテーマ**

- 1 時間目 現在の自分を整理しよう
- 2 時間目 社会との関わり方をたくさん知ろう
- 3 時間目 関わり方を実現するための力を知ろう
- 4 時間目 社会人基礎力を意識して行動しよう
- 5 時間目 行動したことを整理して他者に伝えよう
- 6 時間目 発表を振り返り今後の行動目標につなげよう

現在の自分の「Will」「Can」「Must」を、思いっぴきまらに書き出してみよう。

Will

Can

Must

現在の自分を整理しよう(テキストより)

☆プログラム実施前後に、社会人基礎力や業界・職種等の適性を判定する検査、職業観、適性認知、意欲・行動等に関するアンケートを実施し、変容を分析

**プログラムの効果により目指す生徒の姿**

- ☆自分自身を見つめ、強みと弱みを知り、自己理解を深めながら行動の変容を図る
- ☆学びと社会とのつながりを意識して主体的に進路選択を行える
- ☆目的意識を持つことで学習や学校生活のモチベーションの向上につながる

日常生活で「伸ばす」アクションに取り組み社会人基礎力を2つ選ぼう。

・選んだ社会人基礎力についての動画を視聴しよう。

・P24～P35の該当箇所を、アクションプランを立てよう。

<1>自分の力

自分の力	個人で働く力	チームで働く力
<input type="checkbox"/> 主体的	<input type="checkbox"/> 専門性	<input type="checkbox"/> 協働性
<input type="checkbox"/> 意欲	<input type="checkbox"/> 計画性	<input type="checkbox"/> 責任感
<input type="checkbox"/> 実行力	<input type="checkbox"/> 創造性	<input type="checkbox"/> ストレスコントロール力

目標

この力を活かした動画

社会人基礎力を意識して行動しよう(テキストより)

## 第4回協議会提示資料(2)

<事例 Career Guidance Vol448から 「もやもや」が言葉になるとき>

北海道上川郡東川町における「私と言葉」を考える座談会  
参加者（地域の高校生5名・大人5名）

○座談会の前に 自分の内面を言語化するワークショップ  
フレームワーク「認知の4点セット」を活用し、身近なものの見方を言語化（テーマ：「夏」「ノート」）

意見 → 経験 → 感情 → 価値観

「言葉の背景がみんな違って面白い」言葉の裏でそれぞれのものの見方が形成されていることへの気付き

○座談会 「もやもや」を形成している思いとは。  
日常で「言葉にすること」をどう捉えているか、高校生のリアルな声を聞く。  
言葉にすることのためらい(SNS等)…言葉にならない気持ち…「もやもや」が言葉につながる瞬間へと思考を深めた。

参加した高校生の声

- こんな風に自由に、思うことを語り合う場はなかなかないので、楽しかった。
- 何気ない言葉の一つひとつについてここまで深く考えたことはなかった。新しい世界の扉が開いたような感覚。

☆コミュニケーションの専門家より

- 共感、確認、思考の共有を、焦らず段階的にしていくことが言葉を育むうえで大切。
- 誰かが伴奏したり、ツールなどを使ってリフレクション(内省)することで、内面世界はもっと広がる。
- 言葉によって思考を磨くことは、納得いく決断をするためのベース。そうした言葉の使い方によって未来は開かれていく。

## 第4回協議会提示資料(3)

<外部人材を活用した教育活動の例>

「複業先生®」(株式会社LX DESIGNが運営)  
学校と外部人材をつなぎ、授業の実施までサポートする教育特化型 外部人材のマッチングサービス

「学校」と、「複業で先生をしたい人」をつなぐ

授業ニーズ → 複業先生® → 知見の提供

授業を頼みたい学校・教育機関  
授業づくり、人手不足などに課題がある学校

オンラインでマッチング

知見の提供  
教育に関わりたい社会人  
第一線で活躍するビジネスパーソンや企業OB、大学生

システム上で授業準備を進め、実施までサポート

【キャリア教育】  
自分らしい生き方を体験している講師の原体験や、それに伴う決断・葛藤を対話的に学ぶことで、社会との関わり方を考えるきっかけに。また多様なもの見方や考え方をすることで学びたい・聞きたいといった自己実現への意欲を醸成。  
(対象：小・中高)

よくある質問

Q. どんな授業ができますか？  
キャリア教育、探究学習、教科学習など、ご希望の学年・内容に合わせて幅広く対応しております。

Q. どんな人が複業先生登録をしていますか？  
IT、金融、グローバル、医療、SDGs等様々な分野でご活躍されている方々が登録されています。登壇前に事務局による面談を経て、学校登壇となっております。

Q. 費用はかかりますか？  
基本、事務局手数料+講師謝礼をいただいておりますが、予算に応じた授業内容を提案させていただきますのでご相談ください。

(株)マイナビ：「スキキキ」(外部人材マッチングプラットフォーム) 豊富な経験やスキルを持つ、フリーランスや副業で活躍する外部人材をマッチング(キャリア教育も対応可とのこと)

(第4回意見)

- ・子供たちが「言葉を知らない」という話をよく聞く。探究学習などが進み、子供たちへのインプットは多くなっているがアウトプットはあまり重点化されていない。高校生に対して、自分なりの言葉を外に出していく働きかけが必要。
- ・「なんとなく」の生徒たちに対しても、「自分の言葉で表現する」体験により、「なん

となく」が解消に向かい、内発的動機に基づく進路選択につながるのでは。

・子供たちにとって、いろいろな経験すること自体が大切だが、そこから生まれる感情になぜだろうと考意味付けをしていくことによって、why が how につながり、将来の夢や何のために働くのか、生きるのかを考えることにもつながる。

・体験を通して気づきを得るためのきっかけづくりとしてよいと考える。「なんとなく」というスタンスの生徒をあいまい、不確かと決めつけずに、その要素も考慮しながら体験を充実させ、その要素も考慮しながら体験を重視し、時々立ち止まりながら反復していれば大変有意義な取組と考える。

・有効な取組だと思う。このようなプログラムは大学でも実施している。提示資料(2)の取組を実施するには、ファシリテーターが必要。最初は専門家に教えてもらうとしても、その後継続的にどう展開していくかが課題だろう。

### ⇒施策の方向性①

発達段階を通して、授業中に自らの言葉で自己表現する機会を増やすなど、子供たちが自己理解とキャリア意識を深めることのできる機会を充実させる。その際、ファシリテーターなど外部人材の活用も検討する。

### ②夢を与えるキャリア教育講演会等の実施（中学生・高校生対象）

（第3回意見）

・社会に夢がないといけない。生徒に夢を感じてもらう場があることがキャリア教育につながる。県事業の「キャリアデザイン講演会」があるようだが、多くの学校で行った方がよい。刺激を受ける場を生徒により多く提供することが大事。

### 第4回協議会提示資料(4)

#### <事例 千葉県取組 高校生のためのキャリアデザイン講演会>

県立高校において、企業経営や科学技術分野等で活躍する著名人による講演を実施。講演は動画に編集し、県内高校生向けに限定公開している。高校生が様々な生き方や考え方に触れ、自らの職業観を養い、見通しを持って学校生活を送るきっかけとする。

【令和4年度実績】

県立千葉高校・県立東葛飾高校

(株)ユーグレナ 取締役代表執行役員

「世界を変えるベンチャー企業の視点」

県立千葉商業高校

(株)千葉銀行 取締役常務執行役員 「企業が求める人材とは」

県立船橋高等学校

(一社)日本CTO代表理事 「エンジニアになろう」

県立長生高等学校

著名コメンテーター 「予測不可能な時代に必要な力」

【令和5年度実績】

県立千葉東高校

元スターバックスコーヒージャパンCEO 「私たちは何のために働くのか」

県立小金高校

磯谷公認会計士税理士事務所 「自分事として考える金融と世の中の仕組み」

(生徒感想から)  
・自分の叶えたいことを、世の中のせいにして諦めるのではなく、無いのなら作ってしまうという行動力が必要だと感じた。  
・環境に負担のかからない発電についてや、ユーグレナの体内の脂肪分が発電のエネルギーになることで負荷がかりにくくなるということが印象に残った。二項対立的な事業ではないことが重要だと思った。

(生徒感想から)  
・私たち3年生は全くプログラム系を学んでいないので、今日の話を聞いて非常に危機感を感じました。学外で学んでみようかと思いました。  
・業界のトップを走る方のお話が聞けてとてもたのしかった。特に、成功した人の経験談や当時考えていた事を知れるのはこういった講演の1番の魅力だと思った。  
・自分の進路に関する視点が増えて、とても自分のためになる講演でした。



## 第4回協議会提示資料(5)

### 各校における先輩社会人による講話などキャリア講座実施の推奨

#### 〈事例 県立佐原高等学校〉

##### ※県立佐原高等学校HPから

##### 【第19回佐高OB夢授業が行われました！！】

12月16日(土)、『第19回佐高OB夢授業』が開催されました。各界で活躍されているOB・OGの方々総勢19名をお招きし、「現在の仕事」について、それぞれ授業を行っていただきました。生徒一人ひとりが、自分の将来像を描き目標を定め、それに向けて日々努力していくためのきっかけとなる、進路選択に大変重要な行事です。

在校生は、どの授業を受けるかを事前に選択し、90分間の魅力いっぱいの授業を受講しました。中には、心臓外科医の講師の方から豚の心臓を使っただけの構造説明や生徒自身が解剖を行うなど、貴重な体験となりました。自分のキャリアを考えるうえで大変有意義な時間となりました。授業終了後の生徒の感想には、「自分が今、将来に向けて何をすべきかわかった。」「すごく楽しくて、あっという間の時間だった。」などのコメントがたくさんありました。

最後に講師の方々からは、「自身のこれまでの人生を振り返るきっかけとなり、講師として参加できて本当によかった。」「機会があればまた呼んでほしい。」「在学中にOB夢授業を受けました。将来講師として呼ばれたいと思っていました」などの感想をいただくことができました。諸先輩方と授業により交流を持つ時間が持てたことを、本当に感謝いたします。ありがとうございました。

#### 〈事例 浦安市立日の出中学校〉

##### ※同校学校だよりから(働クエストの紹介)

##### 1年生 働クエスト キャリア教育

日の出中学校OBやPTAのOB等で構成された日の出中学校サポーターズの皆さんによる、今年で12回目となる職業講演会「働クエスト」を開催しました。昨年度はリモートでの実施となりましたが、今年度はそれぞれの職種で専門的なお仕事をされている講師の皆さんからリアルに学べる機会となり、20の職種の講師の皆さんから学べる機会となりました。



掲載できなかったその他の講演は、日の出ホームページに公開しています。

#### (第4回意見)

・コミュニケーション力を含めた職業意識の育成には時間がかかる。体験やセミナーなど生徒が社会に触れる機会を増やすことが大切。普通科になんとか進学するかも知れないが、入学した後の経験が大切。時間はかかるが、生徒にいろいろな経験を積み、様々な対象との接触機会を増やすことが大切。

#### ⇒施策の方向性②

社会に触れ、夢を育む講演会やセミナーなどを増やし、子供たちが自分の将来を考え、目標を持つことに資するような様々な機会を充実させる。

#### イ. 生徒と企業との接触機会の充実について

#### (第3回意見)

・インターンシップや地場産業との課題解決ゼミ、地元経営者との座談会など生徒と企業との接触機会を充実させて、体験に基づく学びを増やすことが重要。

#### ③ 地域や企業と連携した体験的な活動の充実(中学生・高校生対象)

## 生徒と企業との接触機会の充実 千葉県立茂原高等学校の取組「茂高街塾」

○今年度の1年生より総合的な探究の時間を「茂高街塾」(もこうまちじゅく)と称し、地域の魅力や課題などについて調査し、高校生目線での課題解決策を考え、学び、発信していく取組を実施している。商工会議所と連携し、茂原市商工観光課・障害福祉課をはじめ、多くの事業所の協力を得て、1学年全生徒(159名)が以下の取組を実施。

(令和5年度キャリア教育優良学校 文部科学大臣表彰受賞)

### ①テーマ別座談会 (R5.6.19)

24事業所が参加。21のテーマの下、事業所の方と関係業種に関連する課題や魅力について、意見交換。

テーマ例:「IT、WEBスキルを地方でどう活かす?」「人口減少による産業への影響」「福祉・介護業界に求められている人材・能力」  
生徒感想から:「茂原市内の行事や産業について興味が湧いた」「進路や今後の生活に活かしていきたい」

### ②事業所訪問「夏 街Dive!!」(夏季休業中)

全36事業所に協力いただいて、インターンシップやボランティア活動等を体験。茂原市やその周辺地域の産業が、どのように地元と密着して事業を行っているかなどについて理解を深めた。

生徒感想から:「自分の興味のある事を実際に仕事にしている方々と直接お話しをしてみて、改めてとてもかっこいいなと思いました。私はまだ将来について決められていませんが、今回学んだことはきちんと心に留めておきたいです。(印刷広告会社にて体験)」

「周りの社長さん達が裏方を担当していて、勝手な想像で社長さん達は偉そうにしているのかと思っていましたが、人一倍働いて僕たち子供にも気遣ってくださっていて、こういう人たちが成功するんだなと思いました。僕も皆さんの様に色々な人に優しくできる人になりたいと思いました。(茂原七夕祭にて体験)」

### ③SDGs 動画コンテスト (#SASS2023) への動画投稿 (投稿予定R6.2月)

SDGsの「11 住み続けられるまちづくりを」をテーマに、それまでの活動内容や学習成果を動画にまとめる。1学年全生徒がクラスの壁を取り払って興味関心別のグループを構成し、全37本の動画を作成してきた。12月21日には、これまでの活動でお世話になってきた地域の方々を招いて試写会を実施し、意見交換を実施した。#SASS2023:大学生が運営するSDGsをテーマとする動画コンテスト。未来を担う中高生のメッセージを映像を通して世の中に伝え、中高生、大学生、企業が双方向につながり、「社会を変える広がり」を創出する。(令和5年度で第4回。外務省、文部科学省、農林水産省等後援)



① 街を知る力、社会を知ろうとする力



② 非日常的な体験 → 臨機応変に対応する力



③ 発信する力、意見交換をする力、大人と話す力

## 第4回協議会提示資料(6)

～茂原高校校長・第1学年主任のコメントから～

○体験を通じた生徒の変容は目を見張るものがある。6月の座談会の時点では黙っていた生徒たち、「夏 街Dive!!」のアポ取りの際には、マニュアルどおりにおっかなびっくり電話していた生徒たちが、今では対等に大人にインタビューしたり、意見交換をするようになった。体験の大切さを思い知った。

○すぐに就職に結びつくわけではない1年生で実施し、**高校生の早い段階で「社会とつながっている」と感じさせられる**ことができる。やりたい仕事のイメージと現実のギャップを埋めるのがキャリア教育。働いている人を見ることは生徒にとって迫力がある。

○キャリア教育において自己理解や自己分析が大切だと思うが、教員が大上段に構えて実施しようとしなくても、**街の人たちと話し合う中で自ずから生徒は自らを理解するようになる**。本校は「街にこそ師あり」のキャッチフレーズの下、取り組んできた。

○教員にとっても、地域の産業、これからの社会・経済の動向など、生徒とともに活動することにより**自ずと研修となっている**。

○主体的に取り組むことの重要性を学び、生徒には**学力面での効果**も現れ始めている。自分が何をしたいかを自分の頭でよく考えている子供は努力が苦痛ではないということの表れでもあると思っている。また、**教員も刺激**を受け、教科の授業展開においても思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度を養うような工夫が増えてきている。

○企業も学校との連携の仕方がわからないとのアンケート結果が出ているようだが、**学校からも一歩踏み出して地域とつながっていくべき**。本校は商工会議所を通して連携を申し出たところ、すんなりと実施できた。

○一度つながりができると、例えば生徒の動画作成に当たったポイントのある企業から講義してもらおうなど、**個別の連携が二次的・発展的に**起こってくる。

○県内の全ての学校、特に普通科であっても多様な進路指導が求められる学校では、**このような地域・企業・産業との連携など、生徒が社会とのつながりを実感できる取組を実施するべきではないか**。そのために県ができることとしては、授業に多くの時間を費やす教員以外に、**教員の事務的なサポートや外部とのコーディネートを担うスタッフや外部人材の導入**が考えられる。

## 第4回協議会提示資料(7)

### <事例 千葉県の取組 課題探究型キャリア教育ゼミ> ※令和5年度テーマ

テーマ①：新商品開発を通じた地域貢献・食育活動（県立千葉商業高校、県立楨橋高校、県立成田西陵高校）  
年間500万トン以上ともいわれている食品ロス問題について、地域を対象に調査することで、SDGs活動に取り組みながら千葉県産農作物や食品ロス食材を使用したメニュー開発を行い、地域食堂での商品の提供を目指す。

テーマ②：児童生徒に対するロボット操縦体験・プログラミング学習（県立千葉工業高校、県立千葉南高校、県立生浜高校）  
児童生徒の関心が高い「ロボット」を製作し、地域の小学校・中学校等に赴き、ロボットのプログラミングや操作方法などを児童生徒に体験してもらう出前授業を行う。

テーマ③：チーム茂原のポテンシャルを生かしたキャリア教育（県立茂原樟陽高校、県立長生高校、県立茂原高校）  
千葉県誕生150周年を迎えるにあたり、茂原市に通う高校生が主体的に茂原市の課題について探究活動を行うとともに、茂原地域の3校がチーム茂原としてそれぞれの特色を生かした新たな商品開発等の可能性を考える。

県HPから

#### 茂原市役所で合同協議会を行いました（11月17日）

産官学連携の取組として、茂原樟陽高等学校、長生高等学校、茂原高等学校の生徒たちと、茂原市役所経済環境部農政課の皆様、旬の里ねびぼう理事・新商品開発委員会代表の中村様が茂原市役所に集い、座談会形式による合同協議会を開催しました。当日は各学校の説明後、中村様から講話をいただき、その講話に基づき新商品のレシピ等の検討や課題について意見交換を行いました。推進校の生徒たちが主体的に地域の課題を見出し、探究活動を行うことで、望ましい職業観や勤労観を身に付けていきます。



講話に基づき、新商品開発やその課題について、皆で意見交換を行いました



新商品案のプレゼンテーション中

### （第4回意見）

- ・茂原高校の取組はすばらしい。県内の全ての高校で実施することが可能なのか。自己分析ができ、企業研究ができ、自己成長も図れる取組と感じられる。
- ・なんとかなるだろうと考えている中高生たちに対して、社会の厳しき、課題をぶつけ、自分でなんとかしていかなければならないということを教えることが重要。「学校のキャリア教育等で将来を考える上で影響を受けたこと」とのクロス集計では、「なんとなく」の生徒たちに対して、全体集団と同じくらい影響を与えているものとして、「なんとなく就職」の生徒たちに対しては、インターンシップやボランティアなどの体験的な活動がある。「なんとなく進学」の生徒に対しても、大学等における研究活動などであれば同じくらい影響を与えていそう。労働条件などについての学びも一定程度、「なんとなく」の生徒たちにも響いており、現実を突きつけることが大切かとも感じさせられる。模擬的な体験活動ではなく、本物に触れる機会、本物の大人たちと関わる経験が大事。
- ・不安を抱えている若者が多いのではない。不安のもとには経験不足と社会関係の希薄さである。その解決策の一つの柱がキャリア教育だが、学校外も含めた様々な経験の場とキャリア教育を総合的に計画することが重要。
- ・課題解決は目的ではなく手段。課題解決を通して、自分が社会の役に立つという経験をするのが大切。このような生徒にとってのメリットを重視すべき。
- ・地域との双方向性を意識した実践とすべき。コミュニケーションのきっかけは困りごと。困っているからこそ他者と関わって課題解決に結びつける。地域の困り事や漠然とした不安などに耳を傾け、地域と生徒の双方向性を担保していくことが重要。
- ・コミュニケーション力を含めた職業意識の育成には時間がかかる。体験やセミナーなど生徒が社会に触れる機会を増やすことが大切。普通科になんとか進学するかも知れない

が、入学した後の経験が大切。時間はかかるが、生徒にいろいろな経験を積み、様々な対象との接触機会を増やすことが大切。（再掲）

・茂原高校などの好事例などを、ただ蓄積するのではなく、継続させていくことが重要。新たな取組を実施した学校はその都度リフレクションを行い、改善、効率化していく。検証、評価することにより継続し、定着につながる。

・地域連携などのリーダー層の育成は確かなキャリア教育の推進につながっていく。連携コーディネーター、スーパーバイザー的な人材も併せて外部人材の導入は必要になってくると思う。

・茂原高校のような地域や企業と連携した取組を実施するに当たり、事業を率先して行う教員の育成はもちろん大切だが、授業がある教員は、専属で地域とのコーディネートを実施することが難しい。リーダーとなる専属の教員が必要。広くこのような取組を県内で進めるには、リーダー的な教員と併せて、コーディネーターとしての外部の人が求められる。就職支援担当教員は、企業の対応、生徒への指導に追われておりプラスアルファの業務を担わせるのは難しい。専属の加配教員、外部人材の導入が必要と考える。

#### ⇒**施策の方向性③**

子供たちに広く、地域や企業と連携した職業体験やボランティア、課題解決などの活動を体験させ、社会とのつながりを実感させるとともに、様々な職業や産業を理解させる。人材不足が生じている業種や職種について、関係団体等と連携し、中高生にその内容や魅力を知らせていく取組が必要。

※P136「仮説⑫」で確認したとおり、高校生が高校卒業後にすぐに就きたい仕事と企業が現在採用している職種に乖離が見られ、ミスマッチが生じている。人材不足が生じている業種や職種について、関係団体等と連携し、中高生にその内容や魅力を知らせていく取組が必要と考えられる。



#### ④ 職場体験・インターンシップ等による職業理解の促進と就職支援の充実（中学生・高校生対象）

（第3回意見）

- ・求人票を見ただけでは仕事の内容がわからないので、ハローワークとしても職場見学をするように話している。自分で職場を見てみないといけない。また、職業を知るために、厚生労働省の職業情報サイト「jobtag」なども活用してもらいたい。
- ・専門のキャリアコンサルタントが入って、生徒に徹底的に寄り添いながら就職支援をしている横浜の高校を知っている。教員は忙しいので、このような人材の活用が学校にとっても生徒にとってもいい。
- ・就職支援員などの外部人材によるサポート体制は、高校生にとって効果的と思われる。
- ・かつては高校にベテランの就職指導の教員がいたが、今は進学指導にシフトしていることもあり少なくなっている。
- ・確かに高校において、進路指導のベテラン教員は減っており、若手教員はまだ経験が浅いためフォローが必要である。

#### 第4回協議会提示資料(8)

**<千葉県取組>**

**○職場体験・インターンシップ、職業講話協力企業の情報提供**

- ・千葉労働局で、各事業所に職場体験・インターンシップ、職業講話等の実施の可否についての調査を行い、教育委員会が、ホームページに集約結果を掲載。小・中・高等学校に周知している。

**<民間企業によるインターン仲介システム例>**

**○株式会社アツテミー（高校生の就職支援を手掛ける大阪のスタートアップ）**

- ・高校生インターンシップ・職場見学の仲介を事業としており、インターン受入可能企業の一覧から希望先を選択できるシステムを構築。
- ・県が自前でシステムを構築するのではなく、こうした民間システムを活用することも検討の余地。活用方法としては、①県が県内事業所のインターン受入可能先情報を収集したうえで、民間企業に情報提供を行う方法や、②民間仲介企業に県内経済団体を紹介し、県内経済団体が会員企業のインターン受入可能先情報を収集して、民間企業に情報提供を行う方法、などが考えられる。

（アツテミー社の仲介システム画面）

テーマ	職種	期間	場所
ものづくり	製造	春休み 1週間	大阪府 (中大阪)
まちづくり	エンジニア、 電気・ガス・水道	1週間	大阪府 (中大阪)
ものづくり	製造	春休み 1週間	大阪府 (中大阪)
ものづくり	建設・土木	1週間	大阪府 (中大阪)

#### 第4回協議会提示資料(9)

##### <神奈川県立田奈高等学校におけるスクールキャリアカウンセラー等外部人材を活用した取組>

###### ○スクールキャリアカウンセラー(SCC)

神奈川県就労支援、進路支援の専門職員で、県立高校9校に配置。  
キャリアコンサルタントの国家資格を有する専門のカウンセラーが在学中から卒業後も含めて支援。  
週5日、29時間勤務に当たる。  
・生徒の個性を生かし伸ばす就労相談、支援  
・外部と連携し啓発的経験を学校教育に取り入れる

###### ○キャリア支援センター

2010年に設置された田奈高校独自のしくみ。職員、SCCにより組織。生徒のキャリア支援だけでなく、中途退学者や卒業生の就業支援も行う。  
※校内ハローワークとしてクローズアップ現代でも取り上げられた。  
・就労支援(求人開拓、卒業生等の支援含む)  
・外部組織との連携コーディネート など

###### ○田奈高校の外部と連携した相談支援・取組

###### ◇田奈PASS

「よこはま若者サポートステーション」が月に2~3回出張相談に来校。進路を中心にさまざまな相談。中途退学や卒業生への就労支援も。

###### ◇びっくりカフェ・青春相談室どろっぴん

校内の図書館を在校生や卒業生が気軽に利用できる居場所として活用。NPO法人や大学生ボランティアがスタッフとなり、何気ない会話の場、生徒の悩みを聞いてくれる相談窓口の機能も。  
NPO法人による個別相談、アルバイトとインターンをセットにした機会を通して働くことを体得していく自立支援(パイターン)の紹介も行う。

###### ◇総合的な探究の時間の取組

・現役講師によるマナー講座 ・事業所の方への職業インタビュー  
・かなテクカレッジでのものづくり体験、職場見学体験などのキャリア教育プログラム



#### (第4回意見)

- ・就職者の多い高校の進路指導で教員が苦勞するのは進路未決定者の存在。進就職を希望するものの、働くことの意味や、どんなところで働くかということも考えないまま高校3年生まできてしまう。これらの生徒たちは成功体験が極めて乏しく自信もない。就職面接にも勇気を持って立ち向かえない。有効な手立てとしてインターンシップがある。ただインターンに行かせるだけでなく、学校と受け入れ側、場合によってはその間に立つ学校外の調整役が介在しながら事前にしっかりと連携をとり、インターン中も様子を見に行く。このようなプロセスを踏んで生徒のつまずきをなくすことによって、成功体験の第1歩を体験させ、「なんとなく就職」を減らしていけるとも言われている。
- ・中学校段階では、世の中にどんな仕事があるかを子供たちに知らせることが重要。そのために、企業とうまく連携したり、職場体験の事業所の選択をしっかりと行ったりする必要がある。

#### ⇒施策の方向性④

職場体験、インターンシップ等を通して、就職後のミスマッチを防ぐ。就労や進路全般に関する相談対応や助言を行うことのできる専門的な外部人材の活用などにより、高卒就職希望者等に対するきめ細かい指導を行う。

## (2) 教員対象

### <教員研修によるキャリア教育の質の向上>

(第3回意見)

・中学校の教員は進学指導、進路指導、キャリア教育がリンクしておらず、それぞれ別のものとして指導している傾向がある。教員が生徒の職業観をどうつくっていくのかがわかっていない。普段の教育活動をきちんと整理して、何がキャリア教育になっているかを可視化することが重要。

・未来の千葉県の社会情勢や地域的な特性を教員が把握した上で、キャリア教育を行うために、教員がその全体像を把握できるような資料が必要。

・職業系の高校やテクノスクールなどについて中学校の教員が知る機会も大切。県内の中学校に対して、専門学科を積極的に研修等で訪れるよう推奨している。

・教員が社会の変化を理解することも重要だが、社会と自己を結びつけて考えることによって、自分が変わることができたという子供たちの声を聞かせるなど、キャリア教育を通して子供たちが変わっていけるということを教員が認識できるような研修を実施してもらいたい。

(第4回意見)

・中学校では、「勉強すれば選択肢が広がる」という進路指導を、「キャリア教育」に置き換えていく必要がある。その際、教員が企業や職業のことをよくわかっていないので、そのための取組が必要。

・教員は、まずは生徒のためを考えているので、社会の状況を示すだけでなく若い卒業生や生徒の声なども入れた研修資料が教員には有効では。

・学校と地域との連携を意識して、優れた取組をしている教員が「地域創造型教師」として、SNSなどでつながっている例がある。このようなネットワークを県内で作っていくことも考えてもらいたい。底上げ的な取組も重要だが、リーダー層の育成も大事。

・地域連携などのリーダー層の育成は確かなキャリア教育の推進につながっていく。(再掲)

### ⇒**施策の方向性⑤**

キャリア教育の質の向上のため、次の観点から教員研修等を充実する。

- ・社会情勢や産業、職業、高校の専門学科について教員が学ぶ機会の充実
- ・キャリア教育の好事例などを通して、子供たちの職業観を育むことの意義や手法を学ぶ機会の充実
- ・地域や産業と連携し、効果的なキャリア教育を実践するリーダー的な教員の育成やネットワークの構築

### (3) 保護者対象

#### <保護者への情報提供機会の充実>

(第3回意見・第4回意見)

・「保護者や家族とよく会話をする」の回答割合が思いのほか高く(中学生 90.9%, 高校生 88.3%, 大学生 84.3%, 社会人 72.4%)、保護者の影響力が表れている。

・「保護者や家族とよく会話する」が高率だったことをどう解釈するか。家族の仲が良いというだけでなく、親との関係が密になっている分、「第3の大人」との接触が少なく、影響を与え合う友人ネットも希薄(部分的つきあい)になっているのではないかと疑う余地があるように思う。キャリアに関する情報やアドバイスに親の影響が強くなりすぎるということもあろうと考えられる。

・「なんとなく就職したい」を選んでいる生徒においては、本人や学校の要因以外にも保護者の問題なども絡んでいる可能性がある。保護者へのアプローチも必要。

#### ⇒**施策の方向性⑥**

将来の進路や職業を選択するに当たって、保護者の影響力が一定程度あることを鑑みて、企業や業界団体等と連携し、保護者が様々な職業の実情を知るための資料・機会の提供や、将来の産業構造を踏まえたより幅広い情報提供を図る。

### (4) 企業・業界団体・経済団体等対象

#### <企業等との連携の強化>

(第3回意見・第4回意見)

・企業には、職場見学の機会を設けるようハローワークからも伝えている。

・ただインターンに行かせるだけでなく、学校と受け入れ側、場合によってはその間に立つ学校外の調整役が介在しながら事前にしっかりと連携をとり、インターン中も様子を見に行く。このようなプロセスを踏んで生徒のつまずきをなくすことによって、成功体験の第1歩を体験させ、「なんとなく就職」を減らしていけるとも言われている。(再掲)

※そのほか、「地域や企業と連携した体験的な活動の充実」や「職場体験・インターンシップ等」について様々な意見をいただいた。これらを推し進めるためには、企業等との連携が必須である。

※P120で確認したとおり、企業サイドも新卒者の採用に当たって、生徒や学生と直接話ができる機会が少ないことや自社の魅力を伝える方法が少ないことを課題と感じている。また、高校までのキャリア教育推進に協力できることとして、60.5%の企業が職場見学、23.2%の企業がインターンシップを挙げており、企業としても人材確保に向けて教育現場や行政と協力するニーズがあり、意欲もあるものとみられる。一方、P119で確認したとおり、インターンシップ実施における課題として、約半数の企業が学校からの協力依頼がないことを挙げるほか、「効果的な実施方法がわからない」、「業務が多忙で時間・人手の確保が難しい」との声も一定程度あり、これらの職業理解のための体験的な学びは、組織的な連携の下で進める必要があると考えられる。



⇒**施策の方向性⑦**

学校と地域や企業が連携した体験的な活動や、職場見学、職場体験、インターンシップなど、子供たちと様々な職業との接触機会を充実させる。その際、企業側の負担を軽減しながらも、子供たちがより広く、深く、職業を学べるような仕組みを検討するとともに、企業側においても子供や保護者の不安を解消できるような取組を推進する。

## 2. 1以外に考えられる施策の方向性

協議会構成員から言及があったもの以外にも、生徒を対象に、「キャリア意識醸成の促進」及び「生徒と企業との接触機会の充実」といった観点から、本県や他団体の実践例を鑑み、有効と考えられる施策の方向性があるため、ここに提示する。

### <キャリア意識醸成の促進>

#### ① 起業家精神（アントレプレナーシップ）育成の推進（高校生対象）

##### 第4回協議会提示資料(10)

#### 起業家精神（アントレプレナーシップ） 急激な社会変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神

チャレンジ精神、情熱、困難を乗り越える力、創造力、コミュニケーション能力、企画力などの育成により  
⇒自己発見、自己開発を通し、社会の変化に対応して自分らしく可能性を発揮する力を養う  
社会経済にイノベーションを起こす人材を育成する

##### <県内高校が参加している取組の例>

#### ○ちば起業家育成プログラムU25編（主催：千葉県 プログラム企画：タクトピア株式会社）

フィールドワークを通して地域の課題を見つけ出し課題解決のためのビジネスプランを立案するための体験型のプログラム  
高校生・大学生等の12名が参加



フィールドワークで課題発見



チームに分かれて課題の分析



ニーズを深掘りしビジネスプランへ



最優秀提案「いすみ市大原ドライブスルー商店街  
～商店街をもっとオープンに」

#### ○千葉県高校生アントレプレナーシップ人材育成プログラム「TOKKA」（主催：千葉大学IMO）

ビジネスの創出や地域課題の解決に取り組む高校生等を、経費、社会人メンターとのコミュニケーション推進の面から支援。  
採用プラン例（採用された6グループの中から）

◇千葉商業高等学校「Forestage」 鹿や猪を殺処分するのではなく、ペットフードやジビエ食を通して命を共有し、循環させながら農林を守ろうという考えのもと活動。

◇市川大野学園「SmileMart」 日本初の学校コンビニプロジェクトとして、校内に購買がない問題を解決するために、ファミリーマートと連携して「SmileMart」を11月に開店。

##### <事例 品川女子学院「起業体験プログラム」>

28歳の自分を思い描き、それを実現するためには何が必要か、どう行動すべきかを模索するプロジェクト「28project」の一環として実施。社会の仕組みを理解するとともに、社会とのつながり、社会で果たす役割について学ぶ。

○実施概要 文化祭での販売活動に向けて起業体験に取り組む学習プログラム。起業に当たったの社会的意義（企業理念）に着眼しながら、事業計画から決算まで本格的な起業プロセスを体験。



##### <高校生向け起業コンテスト 全国レベルの取組>

#### ○文部科学省主催「全国高校生ビジネスアイデアコンテスト」

・第33回全国産業教育フェア（文部科学省主催）福井大会「さんフェア福井2023」で初めて実施。全国から専門高校等89校が参加し、一次（書類）審査の結果、10校が決勝審査（プレゼンテーション）に進出。

#### ○日本政策金融公庫主催「高校生ビジネスプラングランプリ」

・今年で11回目。昨年度参加は全国455校。

#### ○マイナビ主催「マイナビキャリア甲子園」

・今年で9回目。参加は全国から2000チーム超。8000人超。

急激な社会変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神である、チャレンジ精神、情熱、困難を乗り越える力である起業家精神（アントレプレナーシップ）は、創造力、コミュニケーション能力、企画力など、キャリア教育で育むべき基礎的・汎用的能力に通じる力であると考えられる。

すでに、様々な主体によるアントレプレナーシップ育成の取組に県内高校生も参加しており、今後も積極的な参画が推奨されるものと考えられる。

## ② 高校生の大学や研究施設等における研究活動の推進（高校生対象）

### 第4回協議会提示資料(11)

#### <富山県「社会へ羽ばたく『17歳の挑戦』」アカデミック・インターンシップ>

**実施目的：**高校生が将来進む可能性がある学問分野に関係した研究活動等を体験することにより、**大学の学びが社会に繋がること**を理解し、**学習意欲や進路意識**を高める契機とする。**対象：県立高校2年生の希望者**

今年度の取組例（体験講座1日 授業見学+講義+演習<グループワーク>、夏休み期間に実施する）

- ①富山大学各学部 経済学部経営法学科「判例研究の実習」、理学部生物学科「身近な魚を遺伝子で見分けよう！」など
- ②富山県立大学 「看護師の観察力を体験してみよう」、③富山短期大学 「保育・幼児教育学の世界を知ろう」

#### <新潟県「高校生アカデミック・インターンシップ研修」>

**実施目的：**大学研究室や研究機関等と連携し、将来進む可能性のある学問分野に関係した**研究活動等を体験し、大学等への視野**を広げ、**学習意欲や進路意識**を高め、**探究する力・課題解決能力**等を身に付ける。**対象：県立高校の1・2年生の希望者**

今年度の取組例（研究活動：夏季休業中に1～2日実施、事後研修会：12月下旬に1日実施）

- ①新潟大学 医学部「大学の研究室で身近な細菌について一緒に調べてみよう！」
- ②長岡造形大学 造形学部「あそびのデザイン 楽しさの核を発見し、新しいあそびをデザインしよう」

また、**各大学がキャンパス紹介等の一環として**行っているアカデミック・インターンシップがある。

P35「上級学校、その学科への進学理由」で確認したとおり、高校生が上級学校（学科）への進学を希望する理由として、「自分の興味・関心に合ったことを勉強したいから」の回答が最も多くなっている一方、「学生生活を楽しまたいから」や「保護者や家族がすすめるから」など、目的意識や主体的意志に欠けた理由も一定数の回答があった。

大学等進学希望者について、大学等の向こうにある社会を意識させ、現在の学びの重要性を再認識して学習意欲を喚起するため、県内の大学等と連携し、将来進む可能性のある学問分野に関係した研究活動等を体験して視野を広げるとともに、関係企業や施設等を訪問・見学し、学習意欲やキャリア意識を高める取組として、富山県や新潟県が実施している「アカデミック・インターンシップ」が考えられる。